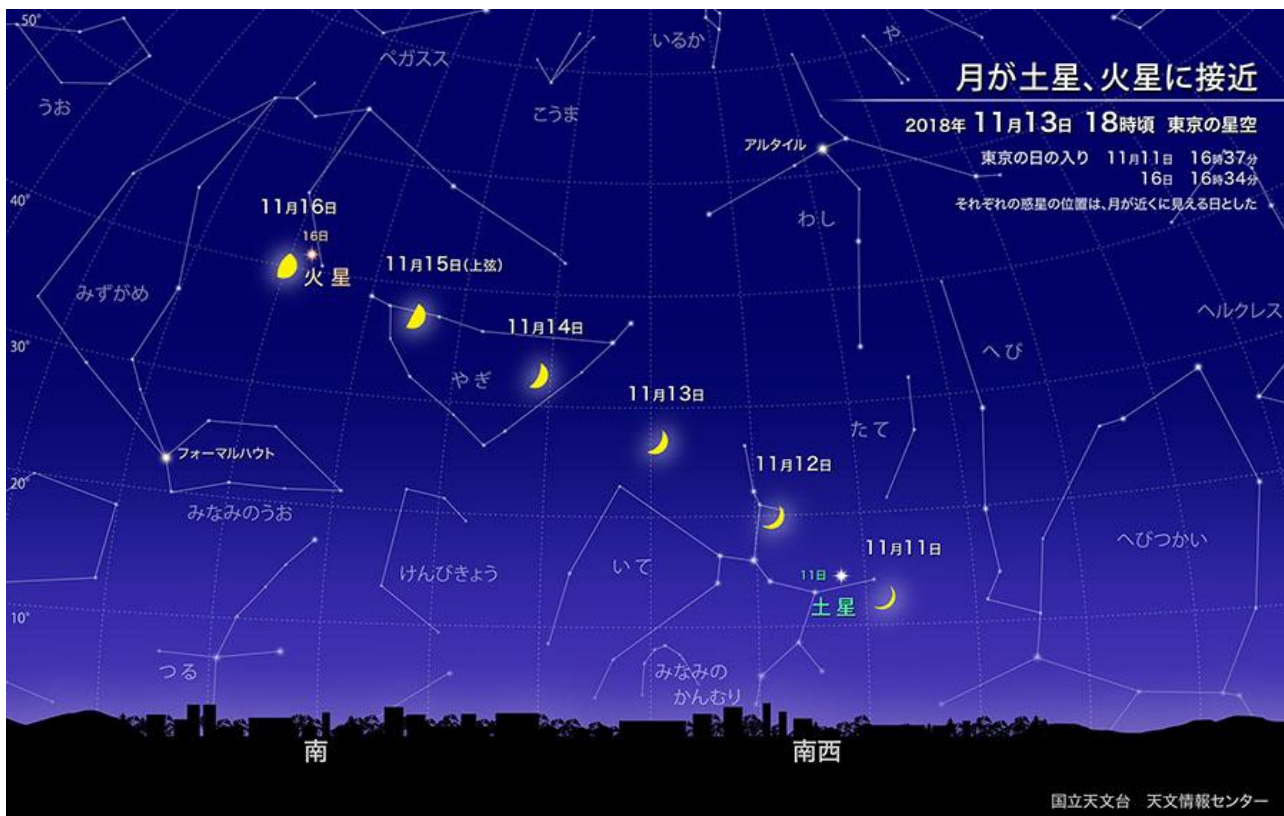


月が火星に接近して見えます！

11月11日(日)ごろの日没後は、三日月のすぐそばに明るく輝く土星が見えました。16日(金)～20日(火)にかけて、今度は「火星」が南にある半月のすぐそばに見えます。赤く輝いていますのですぐに見つけることができます。

また、夜明け前の東の空には「金星」が輝いています。このように夜明け前の東の空に見える金星のことを「明けの明星」といいます。

3年生はちょうど今、天体の学習を行っていますので、学習の参考になれば幸いです。



国立天文台 2018 年 11 月星空情報より

しし座流星群が極大を迎えます！

1月初旬の「しぶんぎ座流星群」、8月のお盆時期の「ペルセウス座流星群」、12月14日ごろの「ふたご座流星群」の三大流星群が有名ですが、「しし座流星群」が極大(流星の数が最も多い状態)を迎えます。

月が真夜中に沈むので、真夜中から朝にかけて見頃なのですが、出現数は少ない(1時間に5個程度)と予想されています。観測する際は保護者同伴のうえ、防寒対策をしっかりとしてください。



日本人26人目の「ノーベル賞」受賞です！

テレビのニュースや新聞などでご存知と思いますが、10月1日に京都大学特別教授の本庶佑（ほんじょ たすく）氏らお二人がノーベル医学生理学賞を受賞されました。

免疫反応にブレーキをかけるタンパク質を見つけられ、画期的ながん治療薬の開発に道を開いたとされ、その功績がたたえられました。

2008年（平成20年）に、オワンクラゲの緑色蛍光タンパク質の研究でノーベル化学賞を受賞された下村 脩（しもむら おさむ）氏は、残念ながらお亡くなりになりましたが、日本人のノーベル賞受賞が今後も続いていくことを願っています。



京都大学の学生たちと記念撮影（中央右が本庶教授）

家庭科の授業で

「省エネミニポスターづくり」を行っていました！

私は2年1組、1年5組、1年6組の理科の授業を担当していますが、ときおり他のクラスの授業の様子を巡回したり、校内を掃除したりしています。

そんななか、3年5組の技術・家庭科の授業で、家庭科担当の近藤政子先生が、スイッチや水道の近くに掲示するための「省エネミニポスターづくり」の実習をしていましたのでお邪魔しました。

限りある化石燃料や資源を大切に、有効に使うことは地球環境を維持するうえで大切なことです。

この活動が意識の向上と行動につながることを願っています。

